

夏休みだからこそその成果：作品展

夏休みの作品展を一足お先に見て回りました。長い休みの間だからこそできた力作をたくさん見て、うれしく思いました。

《1・2年生》

子どもらしいかわいい作品がたくさん目につきました。

いろいろと工夫を凝らした貯金箱がたくさんありました。紙粘土に丁寧に色を塗って、がんばって作っている様子が目に浮かびました。硬貨の種類別に貯めるペットボトルのものもありました。貯まっていくなか様子が目に見えるのでどんどん貯まりそうでした。

休み中、1日も欠かさずつけた絵日記。最後までやり通すといういい経験ができたのではないのでしょうか。

工夫がいっぱい、かわいくかわいく押し花、びっくりするような理科観察、ポスターや習字、どれも一生懸命の作品でした。

《3・4年生》

目のつけどころがなかなかだなあと思った作品が多くありました。

「ちょうの標本ばこ」とありましたが、そのちょうは貝殻でつくったかわいいちょうでした。観戦記つきの「47都道府県の高校野球出場校とその県の名産品」、なるほど、そんなまとめ方もあるのかと思いました。きれいな絵札に加えて言葉も自分で考えた「夏休みカルタ」。大変な力作だと思いました。

自分が食べた温泉卵といつものゆで卵の違いに興味をもって、実際に調理してその秘密にせまろうとした体験記録も楽しい内容でした。

紙粘土で作ったいまにも泳ぎだしそうな魚の貯金箱。同じく紙粘土で作った自分の運動靴をモチーフにした貯金箱は自分の持ち物への愛着が感じられました。

《5・6年生》

「結晶づくり」「レモン電池」「よう素実験」「植物の水の通り道調べ」など、理科の時間に学習したことを発展させた観察や実験記録がたくさんありました。

お店で売れそうな「ゆかた」「きんちゃく」「かぼん」「エプロン」などの手芸作品。漢字の部首を調べてまとめ、消しゴムでそのはんこを作るというちょっと思いつかないような作品。自分で詞を考え、曲までつけた作品は、初めて見ました。

絵や習字も本当に力作が多く、かなりの時間を費やしただろうと思える作品が多くありました。

どれもこれも、さすがに高学年だなあと思わせる努力の結晶だったと思います。

ここにあげたのは、ほんの少しの作品ですが、みな子供らしさにあふれ、手作り感いっぱいのいい作品がたくさん見られました。こんな経験ができるのも小学生ならではかもしれませんね。

しっかり褒めてあげてくださいね。